

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070100971
法人名	学校法人 井上学園
事業所名	グループホームひまわり (ユニット名 なし)
所在地	北九州市門司区稲積1-12-27
自己評価作成日	令和3年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和3年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①楽しい毎日、笑いのあるグループホームをめざしている。利用者の和と職員の輪が共感できる介護。
- ②地域の幼稚園児との交流を実施し「幼老共生」と実践しています。
- ③介護を受ける立場の方への共感を基本とした介護の実践を行っています。
- ④昨年より今日、今日より明日への利用者「生きていてよかった、楽しかった」と実感してもらえる介護を実践しています。
- ⑤健康づくりは食の安全、家庭菜園にての無農薬手作り野菜の提供と中国産の食材を利用しないように実行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学校法人が運営している事業所である。近隣には戸建てやマンションが建つ閑静な住宅地の中に位置し、目前には小さな川が流れている。室内は適度な明るさがあり、中庭を中心として回廊となっている。料理は食育アドバイザーの資格を持つ職員を含め3人の交代制で担当し、利用者の健康に配慮しながら手作りの食事を提供している。80歳代後半から90歳代の利用者であるが、殆ど完食している。その為か血色も良いように見受けられる。また、週に一度リハビリの専門職の訪問もあり、利用者の状況に応じて支援している。職員間のコミュニケーションも図られ、働きやすい雰囲気である。職員は理念を基に一人ひとりを尊重しながら日々関わっている。地域の福祉の拠点として期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	をを基本とした介護の実践を行っています。	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症利用者の日々の介護に尊厳を守るという理念を中心に取り組んでいる。	玄関の見やすい位置に事業所理念を掲示している。月一度の職員会議や朝の申し送り時に理念について振り返りを行い、管理者、職員は共有しながら日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり活動を自粛している。	地域の市民センターの文化祭を利用者は職員と共に見学したり、近隣を車いすで散歩する際には挨拶を交わしたりしている。現在はコロナ禍の中、外出を自粛する状況が続いている。また、町内会に未加入である為、今後、町内会や自治会への加入を検討予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理念を玄関に掲げ、家族、来訪者が目にすることが出来る。いつでも見学、相談を受け付け認知症理解の浸透に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルス感染症の為、行われていないが、郵送にて報告を行っている。	コロナ禍なので感染防止のため、地域包括支援センターや民生委員、家族へ書類を郵送している。その中で、行事報告やヒヤリハット、利用者、職員の状況等の報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターや市の担当者と西門司市民センターと連絡をいつもとっている。	介護保険制度の事務的な内容や、おむつ給付など、不明な点は市担当者へ電話で相談している。また、居室の空き状況も毎月FAXで情報提供するなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践している。身体拘束の見聞した具体的な例について情報提供行う(入院中利用者等の例)	職員は身体拘束となる具体的な行為を概ね理解しており、マニュアルも作成している。新採職員は新人研修に於いて学ぶ機会がある。事業所の立地上や不審者に対する防犯上の観点から施錠している。室内で出来る遊びや行事等で利用者が楽しめるような工夫をして閉塞感を感じさせないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内虐待について所内研修の実施。他人事でないという意識、認識を持つことを日々いましめあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には研修参加、入居者家族については家屋、財産等の事で活用を促すように常に話しをしている。	今迄に制度を活用した事例はない。玄関には情報提供の為、パンフレットの準備があり、昨年下旬に制度についての資料を回覧し、職員は学ぶ機会を得ている。職員は制度について理解しているとは言いがたく、今後、管理者はケアマネジャーと共に所内での研修を行う予定である。	職員全員が制度に対する理解を深めるためにも、研修の機会を確保し、必要な時には速やかに橋渡しができる体制を整えていくことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問については理解を得るように説明、不明な点についてはいつでも説明を行う。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新の時などはコロナ禍でもあり郵送にて行っている。御家族との連絡も常に行っていて、より良い関係づくりを目指している。	月に1、2回利用者の状況について電話連絡したり、請求書等と一緒に事業所発行の新聞を郵送している。その中で、衣類の件について相談があり、家族に代わり購入し準備したことがある。また、家族訪問時、コロナワクチンの接種について相談を受け、かかりつけ医に確認後、結果を家族の訪問時に伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者のより良い生活を支えるためにはまだまだ試行錯誤という事を伝え家族の意見、苦情がホームの運営に大きな力を持っていると話している。	管理者は食材、調味料などの不足分の購入や、利用者の姿勢保持の為に足台を置いてはとの提案に対して対応している。また、体位交換の際に使用するクッションについて職員から相談があり、バスタオルを丸めてクッションとして使用する対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績に応じて雇用形態役職賃金に反映している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用にあたって、性別、年齢は問題にしていない。シルバー人材センターから紹介者の生活保護受給者の雇用あり。	職員同士の連携も取れ、勤務し易く、希望休暇も取りやすい。資格取得などの勤務体制についても支援できる体制である。職員は調理等の得意分野を生かすなどして生き生きと勤務出来ている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権や尊厳を守る介護とは日常の暮らしを支える介護の基本と啓発している。	市主催の人権研修に職員が参加し、資料は所内で回覧し共有している。職員は利用者を尊重しながら日々関わっている。管理者は言葉かけ等、不適切な対応を見受けた場合にはアドバイスしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	今年度は人員不足により十分な研修に参加 出来ないでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	グループホーム協議会は都合により退会し たが、グループホーム協議会での交流でお 互い質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	職員個々のコミュニケーション能力の向上に 努め傾聴して、共感的態度で接し、信頼関 係の構築を図る。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	家族の今までの介護の苦勞を受け止め、指 示。共感をもって聴く。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が求めているものが「何なのか」 を見きわめる必要がある。相談を受け、他の サービスについてもネットワークを利用す る。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係づくりを積極的に行う。お互いに 「ありがとう」と言える関係にある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	介護経験や社会生活の様々な立場の家族 とコミュニケーションを取る事は介護現場だ けで本人を見る立場とは違いあらたに家族 と共に支えている思いを持つ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により自粛している。	知人や友人、親族等の訪問があった場合にはお茶を出すなどして歓待している。はがきを代筆したこともあり、また、利用者が法事に家族と共に参加する場合の準備を支援している。現在、コロナ禍のため、面会も制限している状況である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	くつろぎタイム・ティタイムの時間に回想法を取り入れ個々の話の利用者同士が関わり合えるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍により、自粛している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム内でのその人らしい生き方、暮らし方が何であるかは日々検討している。	利用者の発する言葉や家族からの情報を得て思いや意向を把握している。また、職員が替わることで新たに思い等が把握出来たりしている。職員は利用者の故人に対する思いを汲み取りながら家族と共に法事に参加したりすることを支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞きとり、提出文書また本人からの聞きとり。回想法実施時の話しの内容等で生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守り重視、できる事は続けてもらう、また出来る事を見つける支援、心身状態の把握については毎日の各種記録及び毎日2回の引継ぎミーティングにて行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	良い暮らしとは何かと、その人、その人の本人らしい暮らし方を支える介護計画をしている。月に1度、個別カンファレンスを行っている。	現在6名の利用者を2名の職員で支援している。利用者・家族には日々の関わりの中で思いや意向を聞き、毎月の職員会議時にケアマネジャーや管理者も出席し、職員からの情報も得て、利用者の一人ひとりのより良い暮らしについて話し合っている。毎月評価を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は毎日記録、引つぎミーティングや職員会議で情報を共有。実践や会議計画に反映しながら見直しも行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしさを支援する為に居室に好みのお花を飾ったり、家族の写真や好みのカレンダーを居室に貼っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により自粛している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医は当ホームの運営推進委員の一員。月1回の往診、3ヶ月に1度の血液検査、相談の実施。緊急マニュアル作成を連携をとり作成している。	本人や家族の望むかかりつけ医に受診している。事業所の協力医をかかりつけ医としている利用者や入居時以前のかかりつけ医に受診する場合には、家族が同行している。受診結果は職員も共有している。眼科への通院もあり、適切な医療を受診出来ている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院の看護師と馴染みの関係であり医師往診時にホームに同行し気軽に相談できる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時家族と同行、入院に至るまでの情報提供を行う。主治医、ソーシャルワーカーとの連携を行う。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が優先となる入居者の介護は「グループホームひまわり」ではできないこととしている。重度化や致命的疾患をもつ入居者に対して、緊急時マニュアル作成をしている。できるだけホームでの生活支援。	入居時に看取りはしない方針であることを家族・本人に了承してもらっている。現在、利用者の平均年齢が90歳を超えている。車いす利用者も数名おり、転倒や怪我等も無く、事業所での安全な暮らしが継続できるように全力で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練実施。定期的に実施。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練実施。地域の方の協力は得られる体制。	昨年6月に消防署員の立ち合いで昼間を想定し、また、今月には夜間想定火災避難訓練を予定している。火災発生場所を設定し、利用者を建物の裏まで避難させている。備蓄は現在賞味期限の切り替えで近日に準備の予定であり、飲料水や食品等を3日分程度予定している。非常時には近隣の利用者の家族の協力が得られる。スプリンクラーの設置はある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関しては職員は細心の注意を優先している。	失禁時の対応では他の利用者に気づかれないように声掛けし誘導している。また、食事に長く時間を要する利用者には、慌てることなくゆっくりと食べるよう言葉かけをしている。記録等は利用者には気づかれないように記帳し、記録物は職員のみが入り出す事務所で管理している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活場面で入居者が自分で選べる事のできる場面を設定している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々その時状況に合わせ希望にそうように支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・理容師さんが来園している。本人の意志が言える関係にある。その人らしいおしゃれなど、TPOに応じて支援。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見、味付、盛り付けの用意、準備、後片付け等その人の出来る事をしてもらう。	利用者の嗜好を大切に味付けを凝らし、また利用者の咀嚼や嚥下能力にあわせておかゆや軟食を提供している。敬老会等の行事では、豪華な食事を調理職員で提供しており、利用者に喜ばれている。利用者のできる力を活かしてテーブル拭きをしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック実施。水分量は1日1, 40Occ前後を目標。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施。義歯の適応の確認。みがき残しのない様に介助を行う、口腔内のチェックを行う、訪問歯科の利用、医師の指導によりその方に合った口腔ケアの実践。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じた排泄の支援。自立を心がけています。	職員は、各利用者の排泄パターンを把握している。ポータブルトイレを夜間のみ利用したり、リハビリパンツの利用や声掛けをしてトイレへ誘導したり、それぞれに合わせ自立に向けた支援を行っている。排泄はすべて自立している利用者がいるが、自立維持に向けて見守りをしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策の為、食材やメニューの選択。毎日2回の体操、歩行訓練を支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにされている方が多い。週2回実施。先禁時清潔保持の為シャワー浴を行うこともある。	通常は月、木の週2回入浴を実施しており、他の曜日でも要望があれば入浴が可能である。入浴を拒まれた場合には、声かけをしながら無理なく浴室へ案内したり、同性での介助をするなど配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにての傾眠が見られる際には居室内での休息を促す、夜間の睡眠も安心してもらえよう常に室温状態に気をつけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての書物の常備。確実に与薬できるように担当が決まっている。内容の変化については情報の共有化の為に薬袋に記入。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中でその方のできる役割りへの積極的支援。能力に応じた役割、楽しみ事への支援。行事の時など皆様の好物のにぎり寿しの出前をとっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、自粛している。	コロナ禍の時世であり、通院の他は外出は行っていない。事業所はやや高台にあり利用者のどの部屋からも周囲が見渡せてさわやかな外気を取り込めている。コロナの終息が待たれるところである。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は管理を任されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の安否の確認の為に電話を掛ける支援。家族、友人に季節のたよりを出す支援。たよりが返ってくる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は安心して過ごせる様に配慮している。中庭には季節の草木、花の成長がみられます。天窓からの採光調節にカーテンを使用している。	事業所は回廊づくりであり、中央が庭園で季節の花木等が目を楽ませ癒される空間となっている。リビングには天窓から明るい日差しが届き、テーブルやソファも設置していて、快適でくつろげる共有の場所となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームはいつでも会話がゆっくりに出来るようにL型になっており、席の移動は可能な状態になっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物が持ち込まれている。花の好きな方には季節の花を飾るように支援。読書が好きな方には希望する本を購入する。	居室は備え付きのベッドのほか十分な収納が可能なクローゼットがあり、居室内がすっきりと整い清潔感がある。在宅時からの馴染みの棚や家具を持ち込み、壁には思い出の写真等を飾り付けてそれぞれに居心地よい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応。手すりの設置。共同のトイレ、入浴設備はわかりやすい位置にあり、文字を描いて目印にしている。		